

成 田 市 教 育 委 員 会 会 議 議 事 録

令和 7 年 7 月成田市教育委員会会議定例会

期 日 令和 7 年 7 月 2 9 日

開会：午後 3 時 0 0 分

閉会：午後 4 時 2 2 分

会 場 成田市役所 3 階 第二応接室

教育長及び出席委員

教 育 長	日 暮 美智子
委 員（教育長職務代理者）	高 山 勇
委 員	佐 藤 勲
委 員	片 岡 佳 苗
委 員	岡 本 秀 彦

出席職員

教育部長	松 島 真 弓
教育部参事	藤 崎 清
教育総務課長	高 仲 浩 一
教育総務課係長	平 野 雅 大
学校施設課長	大須賀 一 夫
学務課長	井 上 功太郎
教育指導課長	西 崎 祐 一
生涯学習課長	神 崎 裕 一
学校給食センター所長	福 島 由 規
公民館長	菅 井 良 江
図書館長	飯 田 幸 治
教育総務課長補佐（書記）	森 一 朗

傍聴人：0 人

1. 教育長開会宣言

2. 署名委員の指名 佐藤委員、片岡委員

3. 前回議事録の承認

4. 教育長報告

主催事業等

○7月8日 令和7年度第1回教育事務に係る点検及び評価に関する会議について

委員5名のうち4名の方は、令和7年7月1日より3年間の任期となりますので、委嘱状をお渡ししました。

今年度は数多くの事業の中から23事業を選定し、今後、評価委員の皆様に対し、教育委員会内各課等から事業の内容を具体的に説明し、評価をしていただく予定です。

○7月10日 令和7年度第1回成田市学校給食センター運営委員会について

平成小学校学校給食共同調理場で開催しました。「学校給食センターの概要」と「学校給食施設整備事業」について報告するとともに、アレルギー除去食の提供状況についても説明させていただきました。

委員からは新給食センター建設について、建設費の高騰により影響はないかとの質問がありました。また、アレルギー除去食の提供が新たに美郷台小学校の共同調理場でも可能となり、市内3か所の共同調理場で提供可能となったことに対して、高い評価をいただきました。

○7月12日 令和7年度成田市家庭教育・地域教育力向上講演会について

今年度より、本講演会に加え、成田市PTA連絡協議会運営研究大会を同一日、同一会場で開催する形となりました。

元埼玉県警刑事で現在テレビのコメンテーター等でご活躍の佐々木成三氏を講師にお招きし、「犯罪から子どもを守る」という演題で、講演をいただきました。

「複雑なネット社会の中、指1本の押す行為だけで犯罪につながってしまうなどのSNSの危険性を誰が教えるのか。」「ネットの中では、別人格をつくることができ被害者に相手をいい人だと思わせてしまうような中、情報モラルを鍛えることで正しく知る力を身につけさせる必

要がある。」など、重大な事件等に関わってきた経験から、具体的で分かりやすく説明をしてくださいました。

小中学生のお子さんを持つ保護者の皆様だけでなく、SNSを利用されている大勢の方にお伝えしたい内容でした。

○7月25日 令和7年度第1回成田市立図書館協議会について

令和7年7月1日から2年間の新たな任期となることから、会議に先立ち委嘱状の交付をいたしました。

前年度決算及び事業実績、今年度予算並びに事業計画について事務局より報告をしました。「図書館整備事業予算が前年度より減額になり、図書購入など図書館の蔵書に影響はないでしょうか。」「新たな返却システム導入が人的削減に繋がっているでしょうか。」「新システム導入により、実際に使用した市民からの意見などはないでしょうか。」などの質問がありました。寄贈された市史関連の写真をカラー化し、記憶の解凍を実践していること、青春HiROBAでの興味深い実践についてよい評価をいただきました。

また、ブックスタート事業のさらなる拡大、シニア世代が興味関心を持つ企画などについて前向きな意見もいただき、委員の皆様が図書館事業を後押ししてくださっている印象を持ちました。

市議会

○6月6日～6月25日 令和7年6月定例会について

議会開会時に提出された議案17件に加え、「副市長の選任の同意を求めるについて」他追加議案3件を加えた20議案すべてが可決となりました、今議会に教育委員会から提案した議案は、「市有財産の取得について（空気調和設備）」の1件でした。

その他

○6月30日 北総教育事務所 所長訪問について（西中）

西中学校の所長訪問及び7月10日の大栄みらい学園には、委員の皆様にも出席いただきました。あわせて、管理訪問にも出席いただいておりますので、後ほどご意見やご感想を頂戴したいと思います。

○6月30日 関根副市長退任式について

4期16年にわたり副市長を務められた関根賢次氏の退任にあたり、多くの職員が参集する中、退任式が開かれました。市役所ご奉職は半世紀を超え、永きにわたり成田市政に貢献いただきました。

関根副市長が退場する際に、部下としてご指導にあたったと思われる前列にいた幹部職員と握手をしていた姿が印象的でした。

○7月1日 宮田副市長就任式について

かつて総務部長や企画政策部長を歴任され、6月25日に市議会で同意を得られた宮田洋一氏の就任式が執り行われました。

○7月2日 令和7年度第2回教科用図書印旛採択地区協議会について

高山職務代理者とともに参加してまいりました。この協議会の選定結果を受けて、本日改めて本市としての教科用図書の採択が必要となりますので、この後、議題とさせていただきます。

○7月4日 姉妹都市アメリカ・サンプルーノ市 中学生友好訪問団表敬訪問について

サンプルーノ市から市のアシスタントシティ・マネージャーを団長とする訪問団14名が本市を訪れてくれました。このうち生徒は10名、いずれもパークサイド中間学校の生徒達でした。

一人一人が緊張しながらも日本語で自己紹介してくださったり、うなりくんと一緒に記念撮影をしたり、和やかな雰囲気での時間となりました。

○7月7日 姉妹都市アメリカ・サンプルーノ市 中学生友好訪問団学校訪問（遠山中）について

体育館で訪問団14名を迎えての生徒全員による歓迎会、給食試食、授業への参画、書道体験、部活動体験等を、主に英語科教員が計画しての開催となりました。

歓迎会は生徒が英語で進行し、校長先生のあいさつも生徒が英語で言い換えるなど、生徒が主体となって行っており、双方の生徒にとって貴重な体験になったと思います。

○7月7日 叙勲伝達について

宗吾地区にお住まいの宮野早苗子氏に、叙勲（瑞宝双光章）の伝達に行ってまいりました。宮野先生は佐原市立東大戸中学校を初任に、佐原市及び成田市立小学校勤務を経て、八生小学校、橋賀台小学校教頭に、そして平成4年4月久住第一小学校長に昇任され、平成8年4月に

向台小学校長の職をもってご退職されました。

印旛地区で女性校長が数名の頃に校長職に就かれた先生で、今でも変わらず背筋をピンとされている佇まいに、改めて尊敬の念をいただきました。

○7月10日 北総教育事務所 所長訪問について（大栄みらい学園）

管理に係る今年度の事務所訪問は、午後の久住小学校をもって、本日が最終日となりました。委員の皆様には多くの学校を訪問いただいたことに感謝申し上げます。

○7月11日 令和7年度第3回成田市校長会議に出席いたしました。

○7月11日 令和7年度第2回印旛地区教育委員会連絡協議会定例常任委員会及び第2回印旛地区教育長会議について

常任委員会では、今年度の研修視察についてと、教育功労者表彰について協議をした後、部活動の地域展開に係る情報交換を行いました。

教育長会議では、教育事務所次長から北総教育の現状についてお話があった後、県教育委員会児童生徒安全課長から「千葉県教育の現状と課題」という演題で講話がありました。

○7月12日 令和7年度成田市PTA連絡協議会 運営研究大会について

主催事業で申し上げた成田市家庭教育・地域教育力向上講演会と同時開催されました。

○7月13日 印旛郡市文化団体連絡協議会第14回文化フォーラムについて

印旛郡内における文化団体の交流を目的として始まった本フォーラムが、今年度は成田市が会場地区ということで、大栄公民館にて開催されました。印旛管内5市1町より11の文化団体が、マジック、舞踊、民謡、歌謡等日頃の成果を発揮しました。

○7月23日 令和7年度成田市管理運営研修会について

管理職を目指す市内教員の自主研修である本研修会で、「管理職に期待すること」というテーマで話をさせていただきました。

○7月25日 第75次印旛地区教育研究集会全体会・教育講演会について

全体会で、会場市の立場で挨拶させていただき、その後の教育講演会にも参加しました。

「クラスにひとりはずいぶん!?～セクシャル・マイノリティの子どもたち～」という演題で、NPO法人東京レインボープライド共同代表理事の杉山文野氏からの話をうかがいました。

○7月25日 第34回オールナイトハイクについて

本行事は、中学生を対象に仲間とともに成田市内を歩く25キロメートルのナイトウォーキングを通じて心の残るかけがえのない経験を得ることを目的に実施されています。中央公民館で開会式を行い、21時過ぎに出発し、25チーム全てが翌朝7時過ぎに完歩しました。

開催にあたっては、100名以上の青少年相談員に加え、地区健全育成協議会やグリーンライオンズクラブの方々がご尽力くださり、また、生涯学習課長をはじめ、生涯学習課担当職員は、夜通しの業務となりました。

《教育長報告に対する意見・質疑》

佐藤委員：6月から7月にかけて学校訪問に出来るだけ参加しました。多くの学校に訪問しましたが、近い時期に複数の学校に訪問ができますと、同じ単元の授業を比較して見る事ができ、各先生が子どもたちを惹き込む工夫をしていることが分かり、とても印象深く感じました。

また、美郷台小学校の学校訪問では、校長先生が学校訪問は自分達の授業を見てもらい、意見や指導をしてもらうことが出来る良い機会であると前向きに捉え、より良いものにしていこうと話されており、素晴らしい姿勢であると感じました。

なお、冒頭に行く学校説明については、校長先生が学力の面まで説明することが多いのですが、美郷台小学校では学力面のことに関しては教務主任に説明させており、指導者を育てる努力をしている面についても見る事ができました。

片岡委員：成田市はオーガニックビレッジ宣言をしていると思います。オーガニック野菜は、配送の面などで課題があると聞いていますが、成田市内にはオーガニック野菜を栽培している農家さんも多いので、子ども達に安心安全で、美味しい野菜を届けてほしいと思います。

福島学校給食センター所長：オーガニック野菜につきましては、昨年度から全ての学校に取り入れることができました。配送については、色々と課題があることは認識しておりますので、話し合いながら進めていきたいと考えております。

岡本委員：学校訪問については、訪問を受ける学校側は身構えてしまうとは思いますが、訪問する北総教育事務所も子どもたちの教育環境を良くしたいという目的は同じだと思いますので、お互いに話し合って、より良いものにしていくことが大切ではないかと感じました。

高山委員：５月３０日に、長野県で行われた関東甲信越静市町村教育委員会連合会総会及び研修会に参加してきましたが、文部科学省初等中等教育局教育課程課長の武藤久慶氏の講演が非常に印象深かったことから、報告をしたいと思います。

資料の９ページの右下になりますが、３５人学級の多様性についての解説がありました。小学校の３５人学級の教室には、特異な才能のある子供、発達障害の可能性のある子供、不登校（傾向）の子供、家にある本の冊数が少なく学力の低い傾向が見られる子供、日本語を家であまり話さない子供が一定割合おり、その傾向は中学校でも大きくは変わらないということであります。

これからは、このように多様性のある子どもたち全てを取り残さないように授業を行っていくことが求められますが、一人の先生がどのように教えていくのかが新しい教育課程の大きな課題であると述べられておりました。

なお、研修会参加後に参加しました本市の学校訪問において、研修会で学んだ視点を持って臨みましたが、学校毎、クラス毎においても多様性の割合は異なることから、先生一人ひとりが自分のクラスの多様性の傾向を踏まえて、工夫をすることが必要であると感じました。

次に、資料の３２ページになりますが、授業運営にデジタル化を導入することにより、授業を効率化でき、時間短縮を図ることができるとのことでありました。実際に

東京都目黒区の全小学校において検証したところ、授業を効率化し、新たに創造した時間を学校や先生が独自に活用することにより、創意工夫ある教育を行うことが出来るようになったとのことでした。授業運営のデジタル化には、弊害も考えられますが、これからは如何に授業を効率化し、時間を有効に活用していくかが求められるのではないかと感じました。

なお、本市でもデジタル化を導入し、先生方も相当な工夫や努力をされていると思いますが、このような取り組みを進めていくには、更なる熟練が必要であると思いました。

佐藤委員：6月の学校訪問の際に、高山委員から研修内容を聞いていたことから、私もデジタル化による授業運営の効率化という視点をもって授業を見てみたところ、まだまだ発展途上であると思いますが、デジタル化は授業時間を短縮でき、その時間を有効に使えることがその強みであると思いました。

岡本委員：先週参加した医学教育学会において、AIの活用について話題に挙がりました。教育現場においても、AIの活用が進めば、個別最適な学習と先生の業務効率化が進んでいくのではないかと思います。AIの活用についてはまだまだ課題が多いのが現状であります。

5. 議 事

(1) 議 案

議案第1号については、成田市教育委員会会議規則第20条第1項の規定により非公開により審議する。

《これより非公開》

議案第1号「令和8年度使用教科用図書の採択について」

井上学務課長：本案は、第2回教科用図書印旛採択地区協議会で選定された結果を受け、本市において令和8年度使用教科用図書の採択をお願いするものです。

去る7月2日、八街市教育委員会が事務局となって、第2回教科用図書印旛採択地区協議会が開催され、各市町で採択される候補本の選定が行われました。この協議会には日暮教育長、高山教育長職務代理者にご出席をいただきました。その結果、本日、小学校・義務教育学校前期課程用教科用図書、中学校・義務教育学校後期課程用教科用図書、特別支援学級用の附則9条図書の3点についてご提案を申し上げます。

なお、本会議での採択が第2回採択地区協議会の選定結果と異なるものとなった場合、印旛9市町が一致した採択になるまで印旛採択地区協議会が繰り返し開催され、協議を重ねていくことになります。

まず、小学校・中学校・義務教育学校用教科用図書でございます。資料の2ページ、3ページをご覧ください。教科用図書の無償措置に関する法律第14条及び同施行令第14条により、小学校・中学校・義務教育学校用教科用図書は、令和7年度と同一の教科用図書を採択することになっておりますので、採択地区協議会では調査は行われておりません。資料の2ページ3ページに記載しております令和7度採択と同じ教科用図書を、成田市として採択をお願いするものです。

続きまして、特別支援学級で使用する「附則9条図書」についてでございます。資料の4ページ以降に、協議会で選定された附則9条本が記載されています。今年度は全141冊中15冊が除外となり、126冊が選定されました。そのうち新規本は全4冊で、4冊とも選定となっております。

選定された126冊の一般図書を附則9条図書として採択くださるよう提案いたします。

《議案第1号に対する質疑》

岡本委員：選定する図書がシリーズものである場合、全部で何巻あるのか、また、巻数の全てを選定しない場合は、選定しない図書についても記載があると分かり易いのではないかと感じました。

井上学務課長：除外対象として挙がっていない図書については、初めから選定対象になっていなかったものと思われます。

日暮教育長：他には特にないようですので、議案第1号「令和8年度 使用教科用図書の採択について」を採決いたします。本議案に賛成の委員は挙手を願います。
挙手全員であります。よって、本案は承認されました。

《非公開を解く》

（２）報告事項

報告第1号「成田市教育振興基本計画の骨子案について」

高仲教育総務課長：それでは、報告第1号「成田市教育振興基本計画の骨子案について」ご説明いたします。また、有識者、学校教育関係者等からなる「成田市教育振興基本計画策定委員会」の委員を選任いたしましたので、併せてご報告いたします。

成田市教育振興基本計画の策定につきましては、本年2月の教育委員会会議定例会において、計画の概要や昨年度実施したアンケート調査結果をご報告させていただいたところですが、その後、国・県の計画を参酌しながら計画の基本理念や骨子案を作成し、庁内委員会において検討を重ねてまいりました。

資料左上に「報告第1号資料」と記載しております「成田市教育振興基本計画策定にあたって（骨子案）」をご覧ください。

まず、国や県の教育・生涯学習に関する動向についてご説明いたします。

資料の 1 ページをご覧ください。国では、令和 5 年 6 月に閣議決定された第 4 期教育振興基本計画において、「持続可能な社会の創り手の育成」と「ウェルビーイングの向上」が基本コンセプトとされ、教育の質の向上や教育DX、共生社会の実現、多様な学びの保障など、16 の教育政策の目標が設定されています。

2 ページをご覧ください。生涯学習分野では、令和 6 年 6 月に、中央教育審議会生涯学習分科会において、社会人のリカレント教育の推進などをはじめとする 4 つの事項が重点的に議論されております。また、こども基本法の施行により、こども政策の強化と当事者であるこどもの意見を尊重する姿勢が求められております。

次に 3 ページをご覧ください。千葉県では、令和 7 年 3 月に「人生をしなやかに切り拓き、千葉の未来を創る「人」の育成、を基本理念とし、多様性や、ウェルビーイング、教育 DX など踏まえた第 4 期千葉県教育振興基本計画が策定されております。

4 ページをご覧ください。生涯学習分野では、「社会とつながる生涯学習」を推進目標とする、「千葉県生涯学習推進方針」が令和 5 年 5 月に策定され、県民一人一人が、いつでも、どこでも学び、その成果を生かし、活躍し続けられる社会の実現を目指す方針となっております。

5 ページにつきましては、成田市教育振興基本計画の概要についてございます。本年 2 月の教育委員会会議定例会でご説明させていただいた内容となりますので、本日の説明は割愛させていただきます。

6 ページをご覧ください。計画の骨子案になります。6 章構成を予定しております。第 1 章の「教育大綱について」は、現計画では別冊になっております教育大綱を計画冒頭に取り込む方向で検討しております。教育大綱につきましては、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 1 条の 3 において、地方公共団体の長が総合教育会議において教育委員会と協議し定めるとしておりま

すことから、9月及び11月に開催予定の総合教育会議において、教育大綱の策定について協議させていただく予定でございます。

次に、7ページをご覧ください。次期計画策定にあたっての考え方につきましては、社会潮流や教育政策の動向を踏まえ、10年先を見据えた本市の教育・生涯学習分野における目指すべき姿や施策の方向性を定めた指針とするほか、これを実現するための施策などを示す計画といたします。計画の基本理念案につきましては、年齢・性別・障がいの有無に関係なく、個々の特性に応じた学びや活動を保障する姿勢、学びの成果が地域や社会での活躍につながることで、ウェルビーイングの実現を図るなどの意味を込め「未来へつなぐ 誰もが自分らしく 共に学び 共に活躍できるまち 成田」としております。

次に、8ページをご覧ください。施策体系案となります。現計画からの変更点としましては、学校教育振興計画と生涯学習推進計画の統合にあたり、各事業の取組の位置づけが分かりやすくなるよう、基本目標の上位に、目標間の横断的な視点として3つの「基本方向」を掲げることとしました。

まず、基本方向1の「未来を切り拓く「人」を育む教育の推進」については、子どもたちが自立した個人として未来を切り拓き、一人ひとりが自分らしく活躍できるよう、個々の多様な特性や能力を生かした教育の目指す目標や、子供たちの豊かな情操や道徳心を培い、他者への思いやり、自己肯定感、人間関係を築く力、社会性など、学校教育活動を通じて育み、子どもたちのウェルビーイングの向上を図る豊かな心の育成に関する目標など3つの基本目標を設定しました。基本施策につきましては、1－（1）「5．キャリア教育の充実」および1－（3）「3．人権教育の推進」について、施策の内容を考慮し、現計画の基本目標の（6）から移動しております。

次に、基本方向2の「社会の変化に対応した教育環境の形成と学びの支援」については、将来の予測が困難な現代において、子どもたちや教職員にとってよりよい教育環境づくりを推進する目標や、社会の多様化が進む中、障害の有無や年齢、文化的・言語的背景、家庭環境などにかかわらず、誰一人取り残されること

なく教育の恩恵を享受することのできるよう、多様な教育ニーズに合わせた支援に関する目標など3つの基本目標を設定しました。基本施策に、2－（1）「6. 地域ぐるみで子どもを育む体制づくりの推進」を追加しております。令和5年度より設置した学校運営協議会の取組などについて、計画に取り入れていきたいと考えております。加えて、基本施策2－（3）「1. 教育デジタルトランスフォーメーションの推進」を追加すると共に、令和3年度よりGIGAスクール構想に基づき、児童生徒に1人1台の学習用端末を貸与し活用を開始したことなどから、各学校における授業等での活用状況や今後の方向性を整理するとともに、現計画の基本施策「情報教育の推進」を「2. 情報リテラシー教育の推進」に変更しております。

次に、基本方向3の「誰もが自分らしく心豊かな人生を実現するための生涯学習の推進」については、教養を高め、多様な人々と出会い、自己実現を図るための学習は、人生100年時代において、生涯を通じたウェルビーイングの実現につながる重要な意義を有するものであるため、基本目標として、リカレント教育など生涯にわたり学ぶことのできる学習環境の構築に関する目標と、学習の成果を生かし、活躍できる機会の充実に関する目標の2つの目標を設定しました。基本施策につきましては、第3次生涯学習推進計画の基本施策をベースとして、新たに設定した基本目標に沿ってそれぞれ2つの基本施策を掲げております。各基本方向や基本目標に基づく基本施策や、計画に取り入れる事業および取組につきましては、今後、事業担当課との調整を踏まえ、素案の作成を進めてまいりたいと考えております。

次に、「教育振興基本計画策定委員会」につきまして、ご報告いたします。本委員会は、計画策定に当たり、さまざまな見地からご意見をいただくことを目的に設置するものです。

別紙「成田市教育振興基本計画策定委員会設置要綱」の1ページ目をご覧ください。第3条に、委員を10人以内とし、「識見を有する者」「学校教育関係者」「その他教育委員会が必要と認める者」の区分で委嘱することを定めております。

2ページ目の名簿をご覧ください。選出委員の内訳といたしましては、識見を有する者として3名、学校関係者として4名、その他教育委員会が必要と認める者として3名、合わせて10名の委員を選出いたしました。なお、太田委員と野村委員につきましては現「学校教育振興基本計画」の、日暮委員につきましては現「成田市生涯学習推進計画」の策定にご協力いただいております。

委員会の開催予定としましては、本年度3回の会議を予定しており、8月7日に第1回会議を開催した後は、第2回会議を11月頃、第3回会議を2月頃に開催する予定であります。

今後の計画策定に係るスケジュールにつきましては、骨子案を8月7日の策定委員会にて、アンケート調査の結果と併せて報告後、9月市議会定例会の教育民生常任委員会で報告する予定です。また、計画の素案につきましては、事業担当課と調整した後、9月の庁内委員会、10月の教育委員会会議定例会、11月の総合教育会議及び策定委員会にて検討を行い、12月市議会定例会の教育民生常任委員会において報告を行う予定でございます。

《報告第1号に対する質疑》

特になし

報告第2号「令和7年度第1回成田市学区審議会報告について」

井上学務課長：本案は、令和7年6月23日に開催した令和7年度第1回学区審議会において報告を行った2件につきまして、本会議で報告させていただくものとなります。

まず、「報告第1号 小規模特認校の状況について」であります。令和7年5月1日現在、小規模特認校制度による指定学校変更での豊住小学校在籍児童数は14名、33%であること、入学に係る要件について課題等を踏まえ説明いたしました。説明の際には、豊住小学校の特色ある教育や、指定学校変更の要件をまとめた紹介動画を見ていただきました。今年度の豊住小学校の全校児童数は、42名であり、

令和5年度の推計29名に比較しますと、小規模特認校制度による効果は表れている旨報告をまとめました。

次に、「報告第2号 指定学校変更・区域外就学の状況について」であります、令和7年5月1日現在の、指定学校変更・区域外就学の状況について報告いたしました。令和7年5月1日現在、指定学校変更・区域外就学をしている児童生徒数の合計は600名でした。

また、小中義務教育学校について、現在から令和13年度までの児童生徒数の推移を報告しました。主な意見としましては、児童数が減少する学校について、今後の対策を考えていく必要があるのではないかということでありました。推計に関しましては、あくまでも住民基本台帳をもとに出している数値であり、社会増は加味されておりましたが、今後の児童数の推移を注意深く見守り、審議会委員の意見を参考にしながら学区について検討してまいりたいと考えております。

日暮教育長：ただ今の報告について、質問等はございますか。

《報告第2号に対する質疑》

片岡委員：生徒数が少ない小規模な小学校は、今後どうなっていくのでしょうか。

井上学務課長：遠山小学校は、現在は児童数が少ない状況ではありますが、令和13年度までの児童数の増加が成田市内で一番高いと推計されており、今後は児童数の増加が見込まれますことから、その推移を見ていきたいと考えております。

また、豊住小学校は、児童数の減少により全ての学年において複式学級となることが想定されましたことから、子どもたちの教育環境を考え、小規模特認校制度を導入したものであります。現在は児童数が増加したことにより、複式学級は5年生・6年生の2学年のみとなっていることから、制度導入の効果はあったものと考えております。

片岡委員：豊住小学校は小規模特認校制度となって、色々な取り組みをされているようですが、先生方の負担はどうかのでしょうか。

井上学務課長：小規模特認校となり色々な取り組みを進める中で、教育委員会としても様々な支援、サポートを行っており、先生方にはやりがいを感じてもらっていると考えております。一方で、例えば校外学習を行う際には、児童数が少ないことから、他の小学校と情報共有や連携を図る必要があり、時間を費やしていることなどは課題であると考えております。

岡本委員：特色ある学校づくりを進める上で、他の学校ではやっていない業務を行うということでは業務量は増えたのではないかと思います。それを負担と捉えるか、新たなチャレンジだと捉えるかは、先生の考え方によって変わるところもあると思います。教育委員会としては、良い学校となるよう様々な取り組みにチャレンジしている先生方に対して、これからもサポートをしていってほしいと思います。

高山委員：佐倉市でも小規模特認校が2校あります。小規模特認校と言っても各校で実態は異なると思いますので、学校同士の横の繋がりや交流があれば、他校のアイデアを参考にできる部分もあるのではないかと思います。

6. その他

西崎教育指導課長：平成27年度より成田赤十字病院との連携事業で進めてまいりました各中学校における「いのちの授業」は、本年度から4巡目に入りました。これまで、周産期医療をテーマに、成田赤十字病院新生児科第二部長の川戸医師を講師としてお招きして行ってきましたが、川戸医師の退職に伴い、令和4年度実施校から「共に生きる『共生社会』について」成田赤十字病院の医

療社会事業課関ソーシャルワーカーから、生徒が身近なこととして捉えられるように、わかりやすく話していただいております。

令和5年度は、アフリカでの医療支援活動の経験がある新生児科濱野医師から日本とアフリカでの周産期医療について、令和6年度は、新生児科須藤医師から、成田赤十字病院内にあるNICU（新生児集中治療室）で行われている新生児への治療や須藤先生ご自身の経験について、お話をいただきました。

今年度は、新生児科須藤医師に加え、森田看護師によるNICUでの活動を中心に、「医療現場から見るいのちの輝き」をテーマにお話をいただいております。すでに、今月、成田中学校で今年度第1回目の「いのちの授業」を開催いたしました。関ソーシャルワーカーからは、能登半島地震での災害派遣のお話も伺うことができました。

「いのちの授業」につきまして、ご都合がつくようでしたら、教育委員の皆様にも、実際に講話を聴いていただけましたらと思い、紹介させていただきました。

《その他報告に対する質疑》

特になし

7. 教育長閉会宣言